

国際展開・社会連携研究支援プログラム

部 会 代 表 者： 衣笠総合研究機構・准教授 板谷 直子／文学部・教授 矢野 桂司

研究メンバー： 大窪 健之、小川 圭一、鐘ヶ江 秀彦、谷口 仁士、土岐 憲三、

中谷 友樹、ロヒト・ジグヤス

【研究計画の概要】

(1) 日本での文化遺産の防災に関わる国際的研修事業【○ジグヤス、板谷、大窪、鐘ヶ江、土岐】

立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修、JICA 研修、インドネシア政府防災研修などを実施する。

(2) 各国での文化遺産の防災に関わる研修事業の支援【○板谷、ジグヤス、大窪】

国際研修を修了した研修者が、自国の文化遺産や歴史都市を対象に防災研修を開講するなど、日本での経験を自国の文化遺産防災に資する活動に活かそうとする際のプログラム構成の指導や講師派遣等の支援

(3) 「文化遺産防災国際研修トレーナーズガイド」の活用【○ジグヤス、板谷、大窪、土岐】

2012 年度作成版をもとに、上記(1)(2)の文化遺産防災に関わる研修事業の支援を踏まえた、トレーナーズガイドの実用性の向上

(4) 「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携【○土岐】

フィールドでの人材育成と研究成果の社会還元を目的に、「明日の京都へ文化遺産プラットフォーム」との連携強化を行う。

(5) GIS を介した文化遺産防災情報の国際的共有手法の開発【○中谷、板谷】

世界文化遺産に特化した「文化遺産防災情報共有システム(仮称)」を構築し、文部科学省グローバル COE プログラムの成果や国内外の関連情報の集積を行うシステムの開発を行う。今年度は、災害脆弱性の評価に必要な情報や文化的価値に関する情報の収集を行う。

(6) 文化遺産防災計画の実施にかかる支援【○ジグヤス、大窪、板谷】

カトマンズなどを事例とした、文化遺産防災計画を具体化するための手法の提案を行う。今年度はカトマンズ・パタン地区を対象に、人口動態(観光客、住民などを含む)の調査を行い、GIS 上で災害危険地域等と重ね合わせることで具体的な防災計画の実施へと繋げる。

(7) 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点との連携【○矢野、大窪】

GIS 技術などを駆使した、歴史都市および文化遺産に関するアーカイブの構築を行う。

(8) 「文化遺産防災ハンドブック(Ver.1.0)」の改訂に向けた資料・情報収集【○谷口、大窪、小川】

2012 年度に刊行した「文化遺産防災ハンドブック(Ver.1.0)」を拡充し、防災情報などを加え、2014 年度に Ver.2.0 を刊行するための準備を行う。

上記の研究活動を通じて、文化遺産を核とする歴史都市の災害安全手法の普及を図るため、地域特性に応じた防災手法の実施手順を取りまとめた「文化遺産防災ハンドブック」を、文部科学省グローバル COE プログラム 歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点による原案から改訂・発展させる。同時に、研究成果を活かして文化遺産や歴史都市の現場での災害安全へ向けた社会貢献を推進する。

【研究成果】

I. 研究成果の概要

第6部会:国際展開・社会連携支援プログラムでは、以下の研究課題を進めている。

(1) 日本での文化遺産の防災に関わる国際的研修事業【ロジグヤス、板谷、大窪、鐘ヶ江、土岐】

立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修

- ・ 2013年9月7日～9月21日、第8回目となる立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修(UNESCO Chair Holder:ロヒト ジグヤス)を実施した。(本報告書行事報告に詳報する)
- ・ 今年度は、歴史都市の災害リスクの緩和“Reducing Disaster Risks to Historic Urban Areas and Their Territorial Settings Through Mitigation.”をテーマに、アフガニスタン、インドネシア、イラン、イタリア、モルディブ、ネパール、ナイジェリア、タンザニア、タイから10名の研修者を招聘して、歴史都市防災研究所、京都の世界遺産登録社寺等で、講義、見学、ワークショップを行った。
- ・ 歴史都市防災研究所からは、土岐憲三教授、向坊恭介助教、大窪健之教授、矢野桂司教授、里深好文教授、深川良一教授、板谷直子准教授(講義順)が講義および指導にあたった。

インドネシア政府防災研修

- ・ 2013年6月24日～7月7日、5か年にわたるインドネシア政府研修(委員:鐘ヶ江秀彦教授)の第3期となる防災研修に協力した。(次項研究の詳細に詳報する)
- ・ 今年度の研修者は、インドネシア国家開発企画庁(BAPPENAS)が管轄する省庁および大学の教員等25名である。
- ・ 歴史都市防災研究所からは、鐘ヶ江秀彦教授、深川良一教授、豊田祐輔准教授、大窪健之教授、谷口仁士教授(講義順)が講義を行った。

JICA 国際専門家研修

- ・ 2013年8月19日～9月20日、JICA 国際専門家研修(コースリーダー:山崎正史教授)に協力した。
- ・ 研修のテーマは、歴史都市の保全・防災と文化観光への活用“Conservation and Risk Management of Historic Towns for Cultural Tourism”である。今年度の研修者は、エジプト(3名)、コソヴォ、グルジア、エチオピア、ラオス、チュニジアから招聘された8名である。
- ・ 歴史都市防災研究所からは、大窪健之教授、向坊恭介助教が講義を行った。

ISAGA (International Simulation and Gaming Association) Summer School 2013

- ・ 2013年8月5日～10日、ISAGA Summer School(共同オーガナイザー:鐘ヶ江秀彦教授)に協力した。(主催:国際シミュレーション&ゲーミング学会(ISAGA: International Simulation And Gaming Association)、共催:日本シミュレーション&ゲーミング学会(JASAG: Japan Association of Simulation And Gaming)、後援ならびに開催校:立命館大学歴史都市防災研究所)

- ・ Summer School のテーマは、“Gaming Simulation on Disaster Mitigation”である。今年度は、文化遺産防災や Gaming Simulation を学ぶ若手研究者・実務家 36 名（日本、インドネシア、イタリア、タイ）の参加者が集まった。また講師には 5 ヶ国 14 名を招待し、若手研究者が Summer School において作成した Gaming Simulation を中心テーマとした活発な議論を行った。
- ・ 歴史都市防災研究所からは、鐘ヶ江秀彦教授、豊田祐輔准教授、梶秀樹客員研究員、大槻知史客員研究員、城月雅大客員研究員、Paola RIZZI 客員研究員、Chaweewan DENPAIBOON 客員研究員が講義を行った。

第 10 回立命館大学・タマサート大学共同ワークショップ

- ・ 2013 年 3 月 10 日～23 日、立命館大学タマサート大学共同ワークショップ（共同オーガナイザー：鐘ヶ江秀彦教授）に協力した。（主催：タマサート大学建築計画学部・立命館大学政策科学部、共催：歴史都市防災研究センター（当時））
- ・ ワークショップのテーマは、Policy Formulation for Urban Development and Conservation of Historical and Cultural Area in Kyoto である。今年度は、タイ王国国立タマサート大学計画建築学部学生 39 名が来日し、日本の防災まちづくりについて学ぶために立命館大学の院生・学部生とともにフィールドワークや議論を行った。歴史都市防災研究所からは、鐘ヶ江秀彦教授、豊田祐輔准教授が講義を行った。
- ・ 本年度も 2014 年 3 月 1 日～12 日にかけて、31 名のタマサート大学計画建築学部学生を招いて、第 11 回立命館大学・タマサート大学共同ワークショップを開催する予定である。

(2) 各国での文化遺産の防災に関わる研修事業の支援【○板谷、ジグヤス、大窪】

立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修のフォローアップ

- ・ 2013 年 12 月、歴史都市防災研究所は、インドのアーメダバードに存するグジャラート国立災害研究所 The Gujarat Institute of Disaster Management (GIDM) と研究交流および研修協力に関する覚書を交わした。
- ・ これに基づき、2014 年 2 月 17 日～2 月 21 日、GIDM が主催する文化遺産と危機管理研修コースを共催するとともに、ロヒト・ジグヤス教授、大窪健之教授、板谷直子准教授を講師として派遣し、講義および指導にあたった。

(3) 「文化遺産防災国際研修トレーナーズガイド」の活用【○ジグヤス、板谷、土岐】

- ・ 歴史都市防災研究所では、立命館大学 UNESCO Chair 国際研修に基づき、2013 年 3 月に、ユネスコ世界遺産センター、イクロム（文化財保存修復研究国際センター）とともに、「文化遺産防災国際研修トレーナーズガイド」を刊行した。
- ・ これを、ユネスコ世界遺産センター、イクロム、過年度の講師、および研修生に配布するとともに、要請に応え、アイルランド、ネパールのトリブバン大学に追加配布した。
- ・ また、スリランカから過年度に招聘した研修者が、2013 年 11 月に行った地域研修に、講義資料として提供し活用した。

(4)「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携【○土岐】

- ・ 2013 年 12 月に総本山仁和寺で行われた講座「世界遺産所有者が語る明日の京都」(演題:悠久の仁和寺を語り継ぐ、講師:総本山仁和寺門跡立部 祐道大僧正猊下)、平成 25 年 11 月に朱雀キャンパスで行われた研究会「法勝寺八角九重塔跡の発見から見た院政期の巨大建築物」、2013 年 3 月に立命館大学朱雀キャンパスホールで行われたシンポジウム「大船鉾の復興～祇園祭山鉾巡行の今日と明日～」など、明日の京都に係る活動を支援した。

(5) GIS を介した文化遺産防災情報の国際的共有手法の開発【○中谷、河角(龍)、板谷、矢野、瀬戸、谷端、米島、河角(直)】

世界文化遺産に特化した「文化遺産防災情報共有システム(仮称)」の構築

- ・ 世界文化遺産に特化した「文化遺産防災情報共有システム(仮称)」を構築し、文部科学省グローバル COE プログラムの成果や国内外の関連情報の集積を行うシステムの開発を行う。今年度は、災害脆弱性の評価に必要な情報や文化的価値に関する情報の収集を行う。
- ・ 文化遺産とその防災に関連する地理情報をインターネット上で共有し、情報配信を可能とする「文化遺産防災情報共有システム(仮称)」について、その基礎となるシステムと、文化財の災害脆弱性の評価に関連する地理情報について整理を行うこととした。現状では、昨年度より活用しているハーバード大学で開発された汎用的なシステムである WorldMap に加え、より文化財の管理を念頭においた Getty 研究所が開発する Arches など、関連する動向の情報を収集した。文化財の情報については、研究所重点プログラムでの課題と並行して、まずは歴史都市防災研究所に保有される地理情報のカタログ化を開始し、その中で上記システムの開発に資するものを検討した。
- ・ 今年度は、歴史都市防災研究所の研究メンバーが所有する地理空間情報のリスト化を行った。リスト化作業を、博士課程後期課程の学生に依頼した。

(6) 文化遺産防災計画の実施にかかる支援【○大窪】

- ・ 2012 年 3 月文部科学省グローバル COE プログラムでの研究の成果をカトマンズ研究最終報告書にまとめ、2013 年 1 月 “Follow up Consultative Meeting”をカトマンズで開催した。
- ・ これに基づき、世界遺産“カトマンズの谷”パタン地区を事例とした、文化遺産防災計画を具体化するための研究を、歴史都市防災計画研究部会で進めている。

(7) 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点との連携【○矢野、中谷、河角(龍)、金、佐藤、小泉、高木】

歴史都市および文化遺産に関するアーカイブの構築

- ・ アート・リサーチセンター(以下 ARC)と連携して、GIS 技術などを駆使した、歴史都市および文化遺産に関するアーカイブの構築を行う。
- ・ ARC や文学部地理学教室が蓄積している、1)歴史都市京都を中心とする GIS データ、2)(公)祇園祭船鉾保存会や長江家住宅(京都市指定文化財)との連携による、船鉾や長江家

の様々なデジタル・アーカイブ、3) 京都府立総合資料館と協働で行っている近藤豊写真のデジタル・アーカイブを、歴史都市防災研究に展開するためのリスト化を行い、今後の共同研究の可能性を検討した。

- ・ また、これらを活用した研究として、若手院生や専門研究員との共同研究を実施した。その成果の一部は、韓国 GIS 学会などで発表した。

(8) 「文化遺産防災ハンドブック(Ver.1.0)」の改訂に向けた資料・情報収集【○谷口、大窪、小川】

- ・ 文化遺産における人災・獣害研究部会において、ハンドブックを改訂・追記するための調査を進めている。

II. 研究成果の詳細

インドネシア政府防災研修: 第 III 期高等人材開発事業(PHRDPⅢ)に基づく訪日短期研修

5 年間 6 期にわたるインドネシア政府公共政策立案研修および防災研修は、今年度で完了した。そこで、これまでの経緯、目的、実績、歴史都市防災研究所の貢献についてまとめて報告する。

経緯:

- ・ 2005 年 3 月、インドネシアの第 III 期高等人材開発事業(PHRDPⅢ)を支援・推進するために、学校法人立命館は、インドネシア国家開発企画庁(BAPPENAS)および財務省(MOF)との間で、インドネシア・リンケージプログラムの覚書を締結した。
- ・ 2008 年秋、BAPPENAS より立命館に対し、ODA 円借款を使った、地方公務員研修プログラムの講師などを対象とした短期研修の申入れがあった。立命館はこの申入れを受入れ、「インドネシア公共政策立案研修」を 2009 年～2010 年、3 期に亘り実施した。
- ・ 「インドネシア公共政策立案研修」は 2010 年に終了したが、その成果を評価され、2011 年 6 月、BAPPENAS より PHRDPⅢの枠組みで防災に関する研修を実施して欲しいとの申入れがあり、2011 年～2013 年までの 3 年間、実施することを決定した。

研修目的:

- ・ 現在インドネシア国内で実施されている地方公務員企画担当者向けの公共政策立案・運営管理プログラムを発展させ高度化するために、2 週間の新たな公共政策立案・運営管理プログラムを開発・実施する。また、研修に参加した研修員が帰国後、インドネシアでの研修に講師として参加し、中央政府と地方政府双方で広範囲に活躍できる人材を育成することを目指す。

実績(実施期間・参加人数): < 総計 148 名 >

- ・ **【公共政策立案研修】**

第 1 期 2009 年 6 月 7 日(日) ～ 6 月 20 日(土) 24 名

第 2 期 2009 年 11 月 8 日(日) ～ 11 月 21 日(土) 25 名

第 3 期 2010 年 10 月 31 日(日) ～ 11 月 13 日(土) 24 名

小計 73 名

- ・ **【防災研修】**

第 1 期 2011 年 10 月 30 日(日) ～ 11 月 12 日(土) 25 名

第 2 期 2012 年 9 月 30 日(日) ～ 10 月 13 日(土) 25 名

第 3 期 2013 年 6 月 24 日(月) ～ 7 月 7 日(日) 25 名

小計 75 名

防災研修における歴史都市防災研究所の貢献

講師	第1期(2011年度)	第2期(2012年度)	第3期(2013年度)
鐘ヶ江 秀彦	コミュニティ防災・避難誘導		防災研修導入
深川 良一	土砂災害		
豊田 祐輔			コミュニティ防災・避難所管理
大窪 健之	文化遺産防災・観光客の救助、東山地区のフィールドワーク	伝統的な日本の減災の知恵	歴史都市防災研究所の活動計画
谷口 仁士	経済的視点からの災害評価・アセスメント		

Ⅲ. 今後の研究計画・展開

(1) 日本での文化遺産の防災に関わる国際的研修事業

- ・ 立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修を継続して開催する。

(2) 各国での文化遺産の防災に関わる研修事業の支援

- ・ UNESCO Chair 国際研修を修了した研修者が、自国の文化遺産や歴史都市を対象に地域研修等を開講するなど、日本での経験を自国の文化遺産防災に資する活動に活かそうとする際、プログラム構成の指導や講師派遣等を行い支援する。
- ・ 地域研修の体制づくりの支援、国際機関との連携などを進める。

(3) 「文化遺産防災国際研修トレーナーズガイド」の活用

- ・ UNESCO Chair 国際研修修了者などが行う地域研修の資料として活用する。
- ・ UNESCO Chair 国際研修を通して、研修者の文化遺産を対象とした防災対策に関する情報を収集し、今後のトレーナーズガイド改訂の基礎資料とする。

(4) 「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携

- ・ 「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携を強化する。

(5) GIS を介した文化遺産防災情報の国際的共有手法の開発

- ・ 世界文化遺産に特化した「文化遺産防災情報共有システム(仮称)」の構築に向けて、来年度は、リスト化された地理空間情報の中で、GIS 化できかつ、公開可能なものに関して、「文化遺産防災情報共有システム(仮称)」に順次あげていく計画である。

(6) 文化遺産防災計画の実施にかかる支援

- ・ 世界遺産“カトマンズの谷”パタン地区を事例とした、文化遺産防災計画を具体化するための研究を、歴史都市防災計画研究部会とともに進める。

(7) 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点との連携

- ・ 来年度以降も、ARC で構築された歴史都市京都の GIS データ、文化財のデジタル・アーカイブ、古写真データベース、などを活用した、歴史都市防災研究を展開する。特に、2009・2010 年度の京都市、(公)京都市景観・まちづくりセンター、立命館大学の3者で実施した京町家まちづくり調査の京町家 GIS データや、近代京都の GIS データの活用と、京都市指定文化財の長江家住宅(下京区)の調査などを重点化していきたい。

(8)「文化遺産防災ハンドブック(Ver.1.0)」の改訂に向けた資料・情報収集

- ・ 文化遺産における人災・獣害研究部会において、ハンドブックを改訂・追記するための調査を進める。

IV. その他特記事項

- ・ 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点との連携において、長江家住宅の見学を兼ねて、12 月の定例発表会を長江家住宅で実施した。